

## 肥塚山成就院

肥塚公民館長 杉田保則

肥塚公民館から南へ約二〇〇米の所に正応二年僧某が開山したという真言宗智山派の「肥塚山成就院阿弥陀寺」がある。室町時代後期の大永年間に欽照上人により中興されている。

古くは鎌倉胡桃大楽寺の末であったが、明治十二年、第二〇世光覚の代に京都知恩院に加末している。

嘉永七年に火災で焼失したため、明治十五年に現在の地に忍東照宮の拝殿を移築して本堂とした。

従って、屋根の軒瓦に「三ツ葉葵」の紋章を装着している寺として有名である。

本尊は「阿弥陀如来」脇本尊は「一光三尊（弥陀、勢至、観音）燈籠佛」。

この脇本尊、燈籠佛は「肥塚の灯ろう仏さま」といわれ、縁談、家相、方位、行方不明、特に病人の祈願などに盛んな信仰を受けていた。

成就院墓地は焼失前の地にあり古くは肥塚殿（山）と呼ばれた古墳跡である。

ここに肥塚氏の二基の供養塔が立っている。

一基は肥塚太郎光長のもおで、康元二年丁巳三月建立、他の一基は肥塚八郎盛直のもので応安八年乙卯三月建立と記されている。二基とも青石塔婆の供養碑である。



(熊谷市公連だより 第5号 平成20年より)